

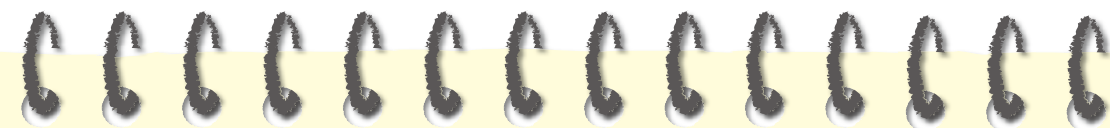
頸髄損傷による全身性障害ながらも、リハビリにより、理学・作業療法両先生方のおかげ様で、趣味の絵を描く希望が叶いました。

季節ごとに描いた水彩画と解説を、病棟の廊下へ掲示される楽しみに、皆様より励まされ力いただく日々です。

絵は、空に伸びる勢いをモチーフにし、入道雲の奥行きに雲母とパステルを使い表現しました。

真夏になると、太陽エネルギーによって強い上昇気流が発生し、雲頂が成層圏まで達して「巨大入道雲」が現れる。その中には大小の雹(ひょう)が浮遊し、これは飛行機にとって大きな障害を及ぼす。

高度1万mの外気温は-40℃以下の極寒の世界。飛行機のエンジンはその湿った冷気を吸い込み、排気ガス中の水分が急激に氷結して「飛行機雲(コントレール)」となる。



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



北村芳美「夏の大漁船」

私の知らない南の島の漁をイメージして描きました。苦勞したところは、海のきらめきと遠くに見える山なみです。この絵の参考になったのはパソコンの画像ですが、カヌーや人の動きが面白く楽しく思われたので選びました。自分で描いて気に入っているのは、空と海の境のさざ波の感じです。右手のふるえが思わぬ効果を生んだようです。

絵を描くときに心がけていることは、画面が明るく、絵を見た人がほっとして心があたたまるとような絵になるように描いています。体調によって、描くのがしんどい日もあります。週2日、会社で絵を描かせていただいていることを誇りに思っています。